新年號

女子青年界

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正六年十二月二十八日印刷納本
大正七年一月一日發行（毎月一回一日發行）



要目



何時使つても
新鮮な感じのする
ライオン齒磨は

最も確實な衛生上の効果の外に、
どなたにも好かれる優雅な香と
齒觸とを持つてをります。
殊にライオン齒磨の煉製は上品で使ひ心地よく、
またライオン齒磨の水製は簡便で含嗽用に適し、
一は旅行にも携帶すべく、
他は食後寢前にも試むべく、文明人の日常生
活に無くてならないものでございます。

東京本所區外手町
ライオン齒磨 ライオン石鹸 本舗 小林富次郎
支舗 大阪市西區明町二丁目 名古屋市堅名町四丁目

(819—6)

大正七年一月號

女子青年界目次

第十五卷第一號

■會　説■

■講　演■

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切
外國人交際用贈答用品充實完備
內地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通二丁目拾貳番地
辨天商會

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugakucho, Kanda, Tokyo.

ヴォーリズ建築會社

近江八幡町

東京支店　東京基督教青年會同盟本部內

東京市神田區表猿樂町

Magic Lantern Slides

a Specialty.

Colored Bromide Postal Cards

(Large collection of pictures of Japanese scenes and customs.)

Y. WATANABE, PHOTOGRAPHER

No. 44 Bentendori, Yokohama.

◎人像撮影

最新式美術的寫眞を調製す

◎出張撮影

遠近不拘精々御便利を計り貴需に應ず

◎現像及び燒付

迅速且つ叮嚀に御用命に應ず

横濱市辨天通三丁目四四

渡邊寫眞館

FRAMES, PICTURES, POST CARDS.

OKAMOTO, CHIKYU-DO & CO,

OGAWAMACHI ST, TOKYO, TEL. HONKYOKU- No. 1100.

SOLE AGENTS IN JAPAN

Cosmos Pictures Co. & National Art Co.

New York, U. S. A.

コスモス繪畫會社◎米國◎ナショナルアート會社

日本總代理店

額縁繪畫繪葉書輸出入

岡本地球堂商店

神田區小川町通

振替東京一九七〇番　電話本局千百番

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

和本

基督教とは何ぞや ■石坂龜治著 .05-.02

基督の事實 ■シムプソン著 .40-.04

讃美歌歴史 ■海老澤亮著 1.00-.08

ナザレの人 ■柏井園譯 1.00-.08

教師及教授法 ■バークレー著 .20-.04

宗教々育指針 ■ファウスト博士著 .4 -.08

人格不能論 ■田中達著 .30-.06

日々の力 ■根本正著 .25-1.00-.08

ヘレンケラー孃吾身の物語 .50-.08

耶蘇の人格 ■フォスディック著 .60-.06

靈交錄 ■フォスディック著 .80-.06

朱と紫 ■富永德磨著 .25-.04

神の我 ■エインズレー著 .15-.02

はなしの園 ■古谷新太郎著 .25-.04

苦痛の秘義 ■ブルークス著 .75-.08

信仰の勸め ■武本喜代藏著 .10-.02

ベテレヘムの厩 ■宮田了山著 .25-.04

人を導く人 ■ゴルドン著 .90-.08

文具

Bible and Hymns
(和洋聖書及讃美歌)

Sunday school Supplies
(和洋日曜學校教材一式)

Stationaries

- Writig Pads (書翰紙)
- Envelopes (封筒)
- Note Books (手帳)
- Fountain Pens (萬年筆)
- Paper Fastener (紙綴器)
- Embossers (文字浮出器)

洋書

Alexander's Hymns No. 3. .58-.06
Alexander's Gospel Songs .58-.06
Christ in Everyday Life…Ed. 2. Bosworth 1.35-.08
Christian Standards in Life…J. L. Murray & F. M. Harris 1.35-.08
English Grammar Simplified…J. C. Fernald 1.65-.08
Good Health…F. G. Jewett .92-.08
Illustrative Teachings of Jesus…Geo. H. Young 2.20-.08
Life and Teachings of Jesus…Ch. F. Kent 2.90-.08
Manhood of the Master…H. E. Fosdick 1.35-.08
Meaning of Prayer…H. E. Fosdick 1.35-.08
Milton, The Poetical Works of John .85-.06
Mrs. Browing's Complete Poetical Works .85-.06
Music and Other Poems…H. Van Dyke 2.20-.08
New Educational Music Course…Intermediate Song Reader…J. M. McLaughlin .74-.06
New Testament of Our Lord & Saviour Jesus Christ with Notes .88-.06
Outlines of Composition & Rhetric 2.30-.08
Patience of God…E. A. Burroughs .45-.06
Paul in Everyday Life…J. D. Adam 1.35-.08
Pupil and the Teacher…L. A. Weigle 1.10-.08
Schoolyard Athletics…J. E. Sullivan .30-.04
Seaside and Wayside, No. 1…J. M. Wright .6 -.0
Self-Reliance…D. C. Fisher 2.20-.08
Student Standards of Action…H. S. Elliott & E. Cutler 1.35-.08
Study of Child-Nature from the Kindergarten Standpoint…E. Harrison 2.30-.08
Care and Feeding of Children…J. L. Morse 1.10-.08
Care of the Sick Room…E. G. Cutler 1.10-.08
Care of the Skin…Chas. J. White 1.10-.08
Care of the Teeth…Chas. A. Bracket 1.10-.08

東京京橋區銀座四ノ一　教文館 (KYO-BUN-KWAN)　振替一一三五七　電話京橋二五二

謹賀新年

大正七年一月元旦

舊年中の御同情を感謝し
併せて今後尚一層の御援
助を希ひつゝ
諸兄姉の上に神の御恩寵
の豊ならんことを祈る

日本基督敎女子青年年會

日本基督敎女子青年會委員

井深花子
岡見恵子
三谷民子
井上友子
辻松子
長谷川喜多子
鈴木歌子
山田千代子
松田道子
廣岡淺子
津田梅子
藤田貞子
上代淑子
長尾ナミ子
星野愛子
城戸順子
野村美智子

志立タキ子
佐伯小糸子
井上レツ子
松岡鎭枝子
ミセスクツク
ミスゲーンス
ミセスクレメント
ミセスフィツシャー
ミセスフエールプス
ミストリストラム
ミスウエスト
ミスデントン
ミスソール
河井道子
ミスマシウ
ミスガンター

第十五巻 一月號

女子青年界

大正七年一月一日發行

會説

沈滯と發育

河井道子

謹んで大正六年を送り大正七年を迎ふ

大正六年は本女子青年會にとりて異動多き多端な歳でありましたが、神の御祝福にて確に順當なる發育をなした事は感謝の外ありません。委員、會員中には新家庭を作られし方や受洗されし方も多く、又水害、火災、疾病等の試練に遇はれし方も多くありますが、何れにも神の御手共にありて、禍福につれ一層高きに導き給ふを信じて祈つて一ヶ年を過しました。會の職員中の異動は、松宮信子、小篠端子の結婚、ミス、カフマン、ミス、ベーカーの日本に再渡來、ミス、レーガン、ミス、グリーンの歸國、大阪

梅花女學校教師ミス、オルチンの横濱女子青年會幹事として就任、三人の新幹事が米國より來りて目下語學研究、河井道子が廣島、九州、神戸、支那上海に移民問題や傳道の後援に出張、中西司娜子が事務員として就職、大阪に支部設置され、神戸と仙臺の修養會に五百人の來會者ありたる事等が主なる事件で、委員や會員方の事を申せば、皆樣が益々本會の爲め、音樂會やバザーに毎度喜んで盡力さるゝ外に寄附金や、會員誘導や、雜誌の御助や、又金錢では到底買ひ得ざる同情と祈と勤勞とが不堪ず女子青年會に注がれました。實に本會は勇氣滿々で將來の有望を何の方面にても見る事が出來ます。神樣が本會を我婦人間に生たる神の力の顯はす機關として御使用下されると信じ、益々成長したいと存じます。本會は語るべき過去の歴史をまだ持ちません、只目的に向ひて馳るものであります。其目的は元より神であり神の喜び給ふ人格を作る爲に、神と偕に働くのであります。

今回支那上海在留日本人の基督教會婦人會からの懇切なる招に應じて、二週間傳道の手傳をなし、自分自身が受けた間接直接の教訓は、眞に夥しいもので感謝に堪えません。先づ實物教育の第一として眼に這入つたものは、支那人の停滯した、退歩した生活狀態と、西洋文明の駸々として止まる處を知らざる大勢力との對照であります。上海は外國人の租界であれば此地を以て支那を識る事の出來ませんのは勿論であります、東洋の保守と西洋の進取との比較を取るには最も適當な場所と思はれます。上海は實に世界的な市で、各國人種が入込んで其特色を顯してゐますから、一方から見ると歐米の大都會に比して遜色なき官衙、商館、公園があると思へば又其附近に支那ならでは見る事の出來ぬ汚穢しき店鋪が軒を並べ、一歩市外に出づれば貧相な泥小屋が宮殿の如き外國人の住宅と隣し、手入の行屆いた芝生と垣根一を越えて、土を小高く盛つた草茫々とした支那風の墓が、田畠の何處と定りなく不規則に散置れて

あるは實に異樣に見えます。殊に新式の自働車に盛裝した紳士淑女とも云ふ如き人々が風を切つて飛び行く其傍に、仕立て以來幾年も着通しに候と云はん計りの垢浸みた服裝の苦力(勞働者)が、同じ樣子の支那人や、或は足の小さな婦人等を、重い無恰好な一輪車に乘せて緩々と押して行く其の樣子を對照して、嗚呼人間の進步と退步とはかくも差異を生づるものかと驚嘆せずには居られませんでした。かく物質界にて天地の差があるとすれば、學術界や精神界の差は到底推量る事は出來ません。支那は六千年以前に文明を味ひし國として世界に誇つて居ります。成程歐米人がまだ野蠻人種であつた時に既に耕作や養蠶や、機織を知り、印刷も火藥も支那が第一に發明したと歷史は傳へて居ります。楊子江から北方へかけて幾百里とかの運河や萬里の長城が大古に出來たことを見ると、誰しも支那人は偉大な民族であつた事を認めます。然るに今日は何故憫むべき病的狀態になつたのでせう。何故益々進んで行かなかつたのでせう。彼等は六千年の永い歷史を誇つて居ります。彼等は孔子の老子のと常に昔は立派な大先生があつたとして、過去の事をのみ顧みて過去の偉大を誇つて將來を思意する事はないのであります。勿論歷史は尊ぶ可きもの、又一國にても一家にても卓越した人物の出來たことを誇るは人情でありますが、所謂英雄の家に英雄の子なしで、親の事を自慢のみして其に倣はんともせず、親の威光を笠に被る者に立派な者が出來る筈はありません。ユダヤにても此思想が流行して居りましたのをヨハネが打破して、當時の高慢なる人々を戒めて「汝等、我等が先祖にアブラハムありと云ふことを意ふ勿れ、神は能この石をもアブラハムの子と爲しめ給ふなり」と申しました、私共だとて何も支那や、ユダヤに例を取らずとも、或場合には日本は神國であるの、一等國であるのと大自慢をするではありませんか、斯くの如き無意味な空自慢を捨てゝ最も眞面目に日常生活を向上させ、過去の惡弊は是を改め、昔よりの美德は是

を助長して、一代は一代と進歩發育すべきものたるを信じて、希望と努力を注がないならば、ユダヤの運命や支那の今日を我國も又繰返さないとは申されません。一國なぞと申すと、如何にも大き過ぎる樣に聞えて私共無能無力なる者が、如何とも出來ない樣に思はれますが、深思すれば個人々々が集合して國を作るものであり、私共も其一部でありますから自重すべきであり、又、純粹すべきであります。是は各自が澱滯せずして、其立場々々に於て成長する事でありませう。物質的學術的の進歩成長も是非願はしい事であります、是等を無視せよとは神は命ぜられません。皆人類に大切な事でありますから、神は世界を人間に賜はり、此内に隱伏せる自然の力を發見して活用せよ、寶物を堀出して利用せよと命ぜられ人に發明、發見の創造力を賜はりました、これも人間が神の像に造られた一つの現象と見てよいと存じます。即ち人間の創造力は神の創造力の一部を顯はすものであります。そこで一輪車でガタ〱して居るよりは自働車で用事をドシ〱濟ませる方が神の滿足する事と信じます、不潔極まる茅舍に何時までも衣食するが神の御旨で、衞生的な便利に優美を兼ねたる家屋に住むが罪であるなどゝは基督敎は決して申しません。何によらず進歩を歡迎致します。其故に基督敎の普及される處には、學校、病院、社會事業などが盛になり、富の程度も增す樣であります、歐米の文明國と支那印度などゝ比較しても早わかりであります。然し斯く申しましても若し物質、學術、技藝上の進歩丈を望んで、それで御旨の天になる如く、地にもなると申せば是は大間違であります。又斯る恩恵に預るからとて基督敎に入るとせば是は至極淺薄な信仰でありまして、昔エスにパンの御馳走になつたので跡を慕つて附き來りし人々と少しも異つた處が御座いません、今日も自身の成功とか一家の幸福とかのみの爲めに基督信者になる者が多いのであります、是も捨つべきではありませんが、是は根を持たぬ花の樣なもので、枯木よりは結

樹でも永持は致しません成長しません、果はなりません、空の鳥が宿しません、人を益しません、のみならず水が滿々とないと凋みます、日が少々強くあたると弱ります、風が一寸當ると倒れて仕舞ひます。是と同様に困難が來る、反對がある不慮の禍が訪れると、直ちに信仰をなくしますのは、たゞ物質や、學術のみを中心とした幸福を得んとして、神を信じ様としたのに據ります。若し根のある樹木ならば風は害虫を除け、雨は塵埃を洗ひて根をうるほし、大陽は生氣を全體に普及する力となる様に、我等も靈性を根として基督に生育されん時は、凡ての事禍福共に皆益をなして働く様になります。爰に生命と申し死せざるものが全體に活躍します、これを聖書は永生生命と稱します。この生命のあるものは成長せずには居られません、内部の發育が外部にまで顯はれて來るのであります。成長は古き無用のものを肥料にして仕舞ひ益々新なるを萌芽させます。沈滯は腐敗を意味します、退步は死に行く道途であります、基督の救は舊人と其行を脱ぎ新人を被るのであります。神に育てられて長つのであります。（哥羅西二章十九三章九）は死より人々を甦らせる力であります、是の力のある人ならば實業界に於て成功する人ならば尚更成功し、學問に卓越する人は愈々新智識を得家庭の幸福は增進し、友情は日々に温かに誘惑には常に勝ち、善には益々いそしみ、遂に神の完全が如く完全くなるのであります。

年々歳々人同じからずと申しますが、我等は信仰上より年々歳々同じではなりません、進んで聖化されつゝ行くべきものであります。支那の六千年の歴史を誇る如く、たゞ年數丈を誇りとして成長發展なき時は死に瀕してゐるか腐敗しつゝあるかの顯徴でありませう。又爰に年が改まり行くと共に諸兄姉の靈的生命が愈々活潑に身邊凡てのものを神に同化させる如き勢をキリストに依りて祝されんことを祈ります。（神戸女學院内にて）

講演

苦痛に生きよ

植村正久

世の中には確かに種々なる苦痛がある。而し苦痛と楽しみと何れが多いかと云ふ事は考へる價値がある。若し苦痛が勝つて居るならば世の中は困つた所であるが、實際から云ふと苦痛が勝つて居る計りでもない、よく考へて見ると嬉しい事も、喜ばしい事もある。而し假令喜びが多いにもせよ、兎に角云ふ可らざる災害や苦痛が世の中にはある。

今日戰爭の事を考へても病院などに行つて見ても如何に苦んで居る人があるかゞ解る。よし、遠くへ行かずとも自身の身寄などの事を考へてもわかる事である。實に世の中には苦痛が多い。殊にこの寒空に困窮して居る者も澤山あらう、この苦痛は神の目こぼしで神の氣付き給はぬ時に出抜けに起るのであらうか、もしそうであると都合のよい話であるが、そんな理由ではない、矢張り何もかも神の見給ふ下で行はれる、決して神がこれを御存じがないと云ふ譯ではない、皆悉く神のしろしめす處である、して見ると如何にしてそんな困つた事などがあるのか。根本的に其結局まで行くと其の先は神の深き思召で、吾々凡夫が全部の解決を付け様とするのは無理な注文である。それが解決がつかなくとも吾々に善い事をする樣に又感ずる樣にと教へ勵まし給ふ神は、吾

吾に親を與へ、夫を與へ、妻を與へ、兄弟を與へ、友を與へ給ふた、其神の愛、眞を認めて初めて信仰が出來るので、斯る事實を無視して神を疑ふのはよくない事である。子供は本能的に親を愛して居る。彼等は別に親を愛するの理由を知つて愛して居るのではない、實に彼等の愛は本能的に潔らかなものである。故に吾々神の計る可らざる思召に就て、辯明出來ぬ所もあるがそれは少しも信仰には差支ないのである。

世に「長者失滅下者定離」など云ふ言葉があるが、世の中の仕組が悲しい事にあはなくてはならぬ様になつて居る、中には懲で自分がつまらぬ間違をする強く云ふと罪を犯すことになるがこれも澤山にある、而し又自分が惡い事をした計りではなく、自分の親族や、友人が道を過つた爲に、その飛塵で卷添をくふと、とんでもない災難がくる、而しこれを吾吾が强ひて逃れ様としてよいか、或る場合は共倒れもし同じ苦勞をせんならん場合に妄りにつぶやいたり仲間はづれをしてよいか、これは濟まぬ事で矢張り苦痛も共にせねばならぬ、樂しみばかり共にして苦勞は御免蒙むるそんな勝手は出來ぬ、それを無暗に責任逃れをするのは非常に利己主義である。或る米國の牧師がこう云ふ喩をした、或人は縫針の様にすつと通り過ぎる事ばかり考へて居ると云つた、實にこの通りでは卑しい了見である、自分の關係者に災害でもあると喜んで共に負ふ決心がなくてはならぬ、その間に人生の妙味。進歩、發達、救もある。又或は國家の事で考へるとよく解るが例へば吾々の選出した代議士が政事の權を眞に執る様になると、彼等のした事は吾々に及んで來る、もしこの人々が無暗の事をすると吾々は塗炭の苦しみに遇ふ、又或る時はその弊害を直す爲に努力しようとするが中々容易に出來るものではない、共に苦痛をおはねばならぬ。即ちエスの十字架がそれである、各自の身の上に途方にくれる災害があつて實に悲慘な月日を送ると云ふ事が澤山にあらうそれを免れる事が出來れ

ば結構だが必ずしも避けられるとは云へぬ、時としては待ち受けて居らねばならぬ様な場合もある、基督教はこの點に於て他の宗教や修養の道や鍛錬苦痛と大に違ふと思ふ。此處に基督教の妙所がある。力がある。即ち十字架の秘訣がある。若し佛教徒或は無宗教の人が斯る場合に如何に身を處するかを考へると、確かに基督教と異ふ所が解る。吾々信仰が薄弱で徹底して居らぬ所もあるが、斯る場合に感謝する事を教訓されて居る。難儀を喜ぶのではないが、難儀にあひ悔ひ改める事に依つて改善される事である。難儀をしたのが結構ではないが、その結果精神上によくなる事である。心配苦勞も一様には云へぬがもしその中によくない結果で災害が來た場合にはその悪い癖を矯め直さなければならぬ、例へば酒を飲んで貧乏になり、その爲に體が震へて何も出來ない。斯る場合には目を醒すのは知れきつた事であるのに益々自暴自棄の酒を飲む、これは苦痛が人を死に持ち來すのである。これは酒の事ばかりではない

これに似よつた事實は澤山にある。名譽心にかられる、人前を飾る、或は金の事を云ふ、これはとても只では濟まぬ事で色々よくない結果がある、自分のよくない事を棚に上げて他を咎める事が多いがこの場合悔い改むべきであるは論を待たぬ話である。或る場合に於ては罪を犯した覺えがなくとも、天災もあり病氣にもなる、それで一文なしになつて職を失ひ人から誤解せられて淋しい月日を送らねばならぬ事もある、實に世の中の苦痛は吾々の云ひ盡されるものではない。

苦痛の多いこの世の中に於て死に到る苦痛と生に到る苦痛とがある。苦痛に對してその取扱ひ一つに依つて魂が死にもするし生きもする、若し吾々苦痛を逃れる事が出來ないならば、どうか魂が浮び上る様にしたい、貧乏しても只くよくよして居つては仕方がない。金を失ひ、名譽を失ひ、健康を失ふそして後は空つぽ、手桶一つ失ひ、土瓶一つ失つてあとが空つぽでは、實際其家は貧乏で、餘程みすぼらしい

身代である。而し信仰の途はそれを失つても何か持つて居るものがあるが、もしそれがなければ人間は實につまらない。唐もろこしは幾枚かの皮をはぎ、毛をとつて下に實がある。もし金を失ひ名譽を失ふてそれきりでは、秕の唐もろこしの様なもので、即ち死に到るの苦痛である。姑にいぢめられた嫁が又自分の息子の嫁をいぢめるならば、これは苦痛に依て鬼になり魂が死んだのである。自分の苦痛の爲に身勝手になり、豪慢になるならばそれは亡びである。而し吾々の難儀が同情を深くし同情を起さしめる様に到らしめると云ふ事は、魂が發達したのであつて、唐もろこしの實が出て來たのである。即ち苦痛に依つて生かされたのである。

新しき年を迎ふるに就て

新渡戸博士談

近頃は暦が大分世界共通になつて、日本の元日も米國の元日も同じ日に祝ふ様になつた。歐洲も同様であると云ひ度が、歐洲でも西の方は同じであつても、東の露西亞に行けば露西亞固有の暦がある。又土耳共は別の暦を用ゐる。而し大體より云へば世界の文明國は何れも大陽暦を用ゐて居る。地球の位置に依つて時刻は異にするけれども、先づ同じ日を以て年を始め同じ日を以て年を終る。昔に逆れば共通の暦は少なかつた。羅馬は羅馬、希臘は希臘、支那は支那、印度は印度と又他の小さな國は銘々自國の暦を用ゐて共通の元日は少なかつたけれ共、何處の國でも其國で用ゆる暦に依つて年を迎へると云ふは

必ずそれ相應の方法で祝ひ、過ぎた年の禍の再び來ぬ様、迎ふる年には福のみ來る様にと祈らぬ者はなかつた、この祈を色々な形に現はす爲に所謂正月の年賀の式があつて、日本で云へば門松を立て、〆繩を張り、海老や太々を下げ、室内では鏡餅、昆布其他の備付をして家族共に若しくは來る客に屠蘇を出すのも、要するに古きを捨てゝ新しきにつくの意である。又國に依つては日本の如く新年の來る前に之を祝ふの準備として忘年會を開いて、其年の厄拂ひを爲す如き何れも古きは禍、新しきは幸の意を表はすものである。

　私は從來年の暮には自分の日記を取り出して、其の一年中にあつた事々を逐一記憶する事を以て、自分の習慣として居つた、そして一年を顧ると嬉しい事より悲しむ事が多い様に普通に思つた。一體人間は善い事があれば、これは當然己れに來る可きものゝ如くに思ひなして、悪い事があれば過つて我身に至つた禍の如く考へる故に、善事は當然のことのごとくなし、悪事は強い印象を心に起す、從つて善事なれば十ヲある事も五つか六つに評價し、悪い事なれば十のものを二十にも數へて、世の中は辛いものゝ如く云ひなす、己の身の荷が他人の荷より重い、同じ風でも己れが肌に當る風は一層冷たきものの如くに云ふて、世の中を好んで暗き狹き冷めたき場所にする、過ぎた年は禍が多かつたと初めから定めて過去を顧み、左程辛い事なく寧ろ善い事さへも暗黒の方面として過ぎる、私はこの仕方は甚だ過まつて居るものと信ずる。善きものは善きもの悪しきものは悪しきものと有りの儘に評價するは最も適當な事であるが、之れを爲すには寧ろ悪いものを輕く見て善きものを、重く見る位の覺悟がなければ公平の判斷は下せない。それ故新年を迎へる準備として過去を顧る時に、然々の有難い事が多かつたと一年中の恩恵を數へたい。若し人にして何も恩恵と思ふ事がないと考へる人があるならば、恩恵に替へればよい。何事も此方の態度に依つて變ずる事が出來

る。よし病に罹つて之が大なる禍であつたとしてもその病の爲に必ず得るものがある、健康體には思もよらぬ事のあるものだ、床について痛みを感じなければわからぬ眞理もある。貧乏竈を支へるに非らざれば到低理解し得ざる經濟の點もあれば人情の裏もある、故に貧窮も、病氣も、見様に依つては得難い經驗で即ち恩惠である。私は今新年を迎へるに就て過去を顧る事のみしたが、右に述べた心持を備へ何事についても光明の方面を見る事につとめなければ、幾度門松を立てゝも、幾度屠蘇を飲んでも幸福を得る事は覺束ない。先に述べた通り世界は何處でも新年には他の時と變つた方法を以て祝ふが、新年を迎へるに着物を着替へたり、其他外部の形式を守つてしても、心、心ならざれば一時の遊び事になる。新年は心其ものを改めてこそ眞の新年である。新玉と云ふのは新しき魂の意である。

基督信者が十二月二十五日を以て、基督の降誕と定めて居るのも、その意は其日に基督なる人がベチレヘムの村に生れたのではない、此の事に就ては歴史上證據はないけれども、吾々今日の暦に依つて舊年方に去らんとするに當つて、基督の魂が吾々の心の中に生れるものと思へば所謂新玉の意味が一層明かになるであらう。基督の新靈が生るゝとは聖書に「地には平和人には惠あれ」と天使の讃美の語にもある通り、正しく人類間に平和と惠の廣まる可きは當然であるべきに、今回で世界の大戰爭の始まつてより第四回の新年を迎へるとは、如何に基督教がその教訓を世に徹底せしむる事の出來なかつたかを表はすもので、或人は今回の戰爭は基督教の力の衰へたのを示すもので虚言する人は、之れを以て基督教は破産とまで云ふ、互に同じ神を祈り、同じ聖書を讀み、同じ讃美歌を唱へた歐羅巴諸國の人々は相互に呪ひ、憎み、殺し其慘忍性を思ふ存分に發揮して居る様は恐らく基督教以前の戰爭に於ても見難き程の醜態である。今日世界の何處に平和があるかと問はば基督教の最も行はれぬ所に一層平和がある様に思

はれる。而し一歩進んで考へれば平和や恵は基督教の唯一の賜物でもあるまい、又今日事實は平和と恵の正反對の現象であるとは雖も、これが一層深い一層高い平和の根底となる階段ではあるまいか。先に云ふ通り私は何事につけても光明的方面を見たいと思ふ、事柄に依り光明なきものにつけては強いて光明をつけ度と思ふから、現今の社會の慘狀を見るにつけても如何にして之より恵と平和を得るの路を講じ様かと考へざるを得ない、徒らに悲觀したり失望したり或は罵倒する事は信者の爲すべき事とは思はぬ。何んでも此世界を善くしやう、百萬の死骸が戰塲に山をなして居るならば、其山の上にも天國を築こう、若し歐羅巴の中央に血の海が現はれたら之を渡つて彼岸に達しやう、如何なる禍をも轉じて恵にする心掛を欲しい、それには平和と恵はまづ各自個人の心に得る事である、恐らく天使の讃美も平和と恵を世界に普及する前に各自の心に植うるの意であつた。斯く考へれば基督の誕生も某の塲所に何月何日と云はんよりは今日己の心に生れたと證明し得ると同じ意味に於て平和も恵もまづ自己の心の國に初じむるのが信者としての務めである。

結婚に對する若き女の態度

第一高等女學校教頭　市川源三

婦人が年頃になると身の振方に就て一つの迷ふ事が起る、それは結婚はした方がよいか知らん、結婚しない方がよいかもしれんと云ふ衝突である、この衝突は結婚を重大視する人に餘分に強く感ぜらるゝ

ので從つて男子よりも女子の方が強く感ずる樣になる。女は結婚した方がよいと婦人自ら進んで思付くものもあるかも知れないが、多くは外部の人に催促される方が多い。其處で自ら結婚したいと思ふのは受働的である女よりも發動的の男の方に多い。處で婦人は何故結婚せねばならぬかと云ふに、三つの理由がある。

一、女は生涯獨身で居る事は出來ない、それは未だ日本では女一人では生活に困難である。

二、生理上の或缺乏からヒステリーとか婦人病とかになつて不幸な生涯を送る事になる。

三、人口增殖を妨げる。

婦人が結婚して人口を殖やすといふことは今日の急務で殊に今回の世界大亂に遭遇して考へると、人口の少ないのは國の貧弱になる重大な原因となるのである。彼の普佛戰爭の時は人口に於ては互角の勢であつた佛も今は獨逸の半分程になつた。されば如何に精巧な武器があつても人口が少なくては無慘であると云ふ現象を見せつけられた所から、婦人は結婚して人口を殖やさねばならぬと云ふ事になり結婚を女子に勸める譯になる。

昨春女子英學塾で帝大總長山川博士のされた演說の要領もこの人口增殖の理由を力說したものである。この種の論は到る處に聞くものであるが、結婚せよと云ふ聲に對して、婦人は寧ろ結婚をあやぶみ同時に忌避せんとする考も浮ぶのである。その忌避する一つの原因は衞生上の問題である。兎に角結婚は生涯を幸福に暮す爲にするものではあるが、少なくも婦人の人格を向上せしむるに相違ない。然るに或種類の疾病をもつ婦人は結婚に於て生命を失ふ樣な場合もある。斯る人は避けねばならぬ。その病氣と云ふのは强度の肋膜炎、肺結核慢性の心臟病、乳癌頑固な婦人病等の如き病氣である。

次に婦人の結婚を拒む理由は婦人の性格が家事の如き些末の事を爲すに不適當の場合である。日本の今日の狀態ではまだ主婦は雜多の業務に當らねばな

らぬ。或時は書記にもなり、會計掛にもなり、又看護婦にもならねばならねし、女中の代りもしなくてはならぬが、それが人の性質に依つて爲し得る人と爲し得ない人とがある。これは重に先天性よりも教育に依る事であらうが、此種類の婦人は結婚せぬ方がよいかも知れぬ。

次には天稟の才の優れた婦人の場合である。一體天才の人は家事の様な凡庸な仕事に從事するは不適當で、その雜務をとり得るとり得ないと云ふ事は別問題と考へて、あたら天才を捨てるのは惜しい事で婦人自身も、又自覺して居る事であるが、若し斯る場合には結婚は本人の爲にも國家の爲にも不適當である。

次には男子の貞操を重んじない一事件である。理論より云つても、西洋諸國の實例よりしても、夫婦は一夫一妻で、女子に要求する貞操は男にも要求するが當然である。日本の古い理想では一夫多妻も考へられぬでもないが、それは婦人には通じない議論である。男子が婦人に壓制的である事は西洋の思想を知る婦人をして不愉快に感ぜしむるは止むを得ない。然らばどの位迄男子は不品行であるかと云ふと統計でこれを明瞭に表らはす事は出來ぬが、我壯丁檢査の報告によると花柳病患者の數は、大正二年には一千人につき二十七人即ち百人につき三人で、壯丁に於て既に斯る多數の患者があるとすると、年齡の増加するにつれ、其の數は殖えるのみである。伯林の統計によると學生百人につき二十五人、即ち四人に一人が花柳病患者である。この數は日本に於てあてはまるかどうかわからぬが、我國にしても世界にしても段々殖える一方であると考へると、日本もこの様になりはしまいか、殊に私の知つて居る或る大會社に就て調べて見ると、何百人の社員のうち上は重役より下は小使に至る迄全部花柳病患者であつた。これが男子であるとすると、婦人は男は皆この患者ではあるまいかと疑ひをさしはさむも無理ではなく結婚は如何なる意味があつてするのであるかと

考へるも當然の事である。
次には生活難である。昨今生活難は益々猛烈で、各自一人で働いて暮らせば生活が出來ても、もし家を持つとすると四五十圓の月給では殆んど病氣の際の豫備に當てる貯金さへも爲し得ぬのに、子供でも出來ると、其生活は手一ぱいで夫が病氣にでもなると、一家は實に悲慘な有様で、殊にこの苦痛を經驗するは中流社會の人々に多いのである。この點よりしても結婚は男や老人が云ふ様なものではない。
次には日本の家庭生活の圓滿でない事である。男が壓制する所から、女は全く死人同様になり、盲從してさへ居れば治るが、女の人格を認めるとか、意見を入れるとか云ふ様な男は若干もない。よし斯る夫があつても舅姑の同棲する我家庭制度に於ては、婦人の要求する待遇を與へる事は出來ない。これ等は心ある婦人をして結婚を躊躇させる所以である。又理解と云ふ點から自分の方にも相當の教育がなくてはならぬ、又自活の途も知つて居らねばならぬと云ふ所から、その準備をする爲に、知らざる間に結婚が遲れると云ふ事は時には遂に結婚避忌の原因ともなる。
この外重大な事件は婦人が結婚せんとしても出來ぬ理由である。それは日本の結婚法が媒酌結婚で、これに於ては互に意氣投合せず、又男は女の年の若いこと、容姿の美はしい事、品行の亂れて居らぬ事を以て條件とする。この年の若いのを望むと云ふ事は若き女は男に從順であらうと云ふ處からである、又女の方は男に働きがなくてはならぬ、それには相當の年齡に達して居る方が品行の點よりしても、收入の點から考へても不安心でないと思ふ傾向がある。其處に成立した結婚には年齡に相違がある。女の年上と云ふのは殆んどなく多くは年下であるが、その相違は二歳乃至八歳が最も多く八歳以上十五六歳迄の差のものも相應に多いから、結婚せる男女年齡の差に通じて考へても六七歳と見てよいが、假りに五歳の相違と考へても、女二十歳で男は廿五歳と

結婚し、女二十五歳で三十歳と結婚する結果になる、一體女と男の人口は女百に對し男百二であるが、男女の人口は年毎に減るから、十五歳乃至四十五歳迄の婦人が常に五つ上の男と結婚すると假定し、結婚出來得る人が皆結婚したとしても、約六十萬の相手がない譯である。處が昨今男子の敎育がむづかしく、又準備が困難なる處から、男の結婚が三十歳前後になつたに拘らず、我國の風習よりして女學校出位の女を妻にする、そこで年齡の相違は十歳にもなるから、皆十歳の差で結婚すると云ふと、若き女の剩餘は益々劇しくなる。然るに今迄の日本の古い習慣を保存し一方現代の要求に應ずると行き場のない婦人が多くなる。これは結婚を婦人が忌避するのではなくして、爲し度も出來ないのである。最初にもどり男や年寄りが、若き婦人に結婚せよとのみ云ふのは不親切此上もない話である。若し婦人に結婚せよと勸めるならば、婦人と男子との結婚年齡の差をひくめる樣に努めるがよい。又男子の學校敎育の年限を早め廿五六歳になれは、相當の收入のある樣にしなければならぬ。然るに男子にその敎育を施さずして、婦人に早く結婚せよと勸めらるゝ山川帝大總長のお説は矛盾して居る樣である。

次に結婚後夫が妻子を養ふ事の出來ぬのは明瞭である。之れに對して健氣にも婦人が獨立せんとして、高等の敎育を受けるのを妨げるのは不當で、之に代る社會政策の實現を努める事をしもしないで、單に結婚せよと云ふのは、深慮を缺いて居るも甚だしい。又子供を產めと云ふ點に於て婦人は子供を產む機械であるないは別論としても、產む以上は立派なる子供を要し、社會もこれを要求するに拘らず、男子の不道德が子孫に影響することを顧慮せぬのは何故か。今や中學より大學に至るまで殆んど敎師がこの點に於て訓戒して居る處はない。婦人の社會に於ては十二分に研究されつゝあるが、婦人に結婚を勸めらるゝ山川總長は、學生に向つて果して此の種の誡諭を爲されたであらうか。

次に和合ゝ結婚でなければ男にとつても女にとつても不愉快で、從つて國家にとつても結婚されない方がよい位である。この和合の結婚は現代の思潮の婦人を少なくも、同格對等と見る點に於て實現され得るのである。結婚を勸める人は婦人を尊重し、男子の道德を進むべきであるが、誰が何處にこれを說いて居るか、全國は廣いから少しは說いて居る處もあるかも知れぬが、多くはあるまいと思ふ。この點より考へると、若い女の結婚をせぬのを責めるのは無意味で、寧ろ若い女の喜んで結婚する樣にするのが、世の急務ではあるまいか。

次に、英學塾生徒に對して特別に辯解して見ようと思ふ。博士は同塾卒業生に向つて、この學校の卒業生は結婚する者が少なく、又あつても晩婚であるとの意味の演說をされたそうであるが、英學塾の卒業生に果して結婚せし者が少ないか調べて見る必要がある。私の統計に依ると英學塾卒業生は、三十六年度より大正五年度迄二百二人で、結婚せし者は九十五人で四七%である。女子高等師範卒業生は千十九人、其內結婚せしは四百五十九人である。その比は四四、七%である。次に音樂學校卒業生は六百十四人(女子)で結婚せし者は百二十三人、即ち四%に當る。これを以て見ると決して英學塾の生徒のみが晩婚でない。從つて責を負ふ原因もない。成程十八九歲で結婚すれば晩婚でないかも知らぬ。然し卒業したら結婚すると云ふ方針で敎育して居る、女學校の卒業生が十八乃至十九で卒業したものが、卒業後一年を經過して一割づゝ結婚する割合であるから、十年かゝつて皆することになる。高等女學校の統計で見ても卒業後、一年乃至十年で結婚することになる、女學校卒業後高等の敎育を受けると、四五年かゝる。假りに女學校五年目に結婚するとすれば、專門學校卒業後結婚はさまで遲くはない。斯の如く年齡の點よりしても遲くて困ると云ふ程ではないのみならず、思想は堅實であるから、從つて離婚も少ない譯である。この點よりして私は女子が高等

の教育を受けると云ふことは希望する處であるが、序に希望を云ふと、今少し年限を短かくしたいと思ふ。若し高等女學校卒業で專門學校の本科に入る力がないとしたら、女學校に於て專門學校に入學せんとする人に對し、特別に勉强させるがよい。これ等の人々に對して一週間六時間の裁縫などは不適當であらうと思ふ。斯る方面を改革すると同時に、結婚法の改良もし、理想的結婚に依り社會を改善したいと私は思ふのである。(女子英學塾讀書會に於ける講演筆記)

罪と同情

松岡鎭枝

ギヨッテの作エルテルの悲しみの譯の中に左の一節があります。

「今日ロッテは或る驚く可き出來事を私に話した。M老人と云ふのは、極めて貪婪なしまりやで、其の活計上の事から存分に夫人を苦しめ束縛してゐた、けれども夫人はこれを逃れる路を心得て居た、四五日前に醫者がもう迚も見込がないと言つた時に、夫人はその夫を呼んでロッテも其席に置いて、いふには、「私のなくなりました後でいろいろのいさくさが起りません樣に一つ申上ておきたい事がございます、私は今迄もう及ぶ限り無駄遣ひもせず、物も粗末にも致しませんで家の内をやりくりして參つたのではございますが、どうぞお許しを願ひたい事は、私が此三十年間あなたをおだまし申して來た事でございます。あなたと私とこうして御一所になりました初めには、勝手向

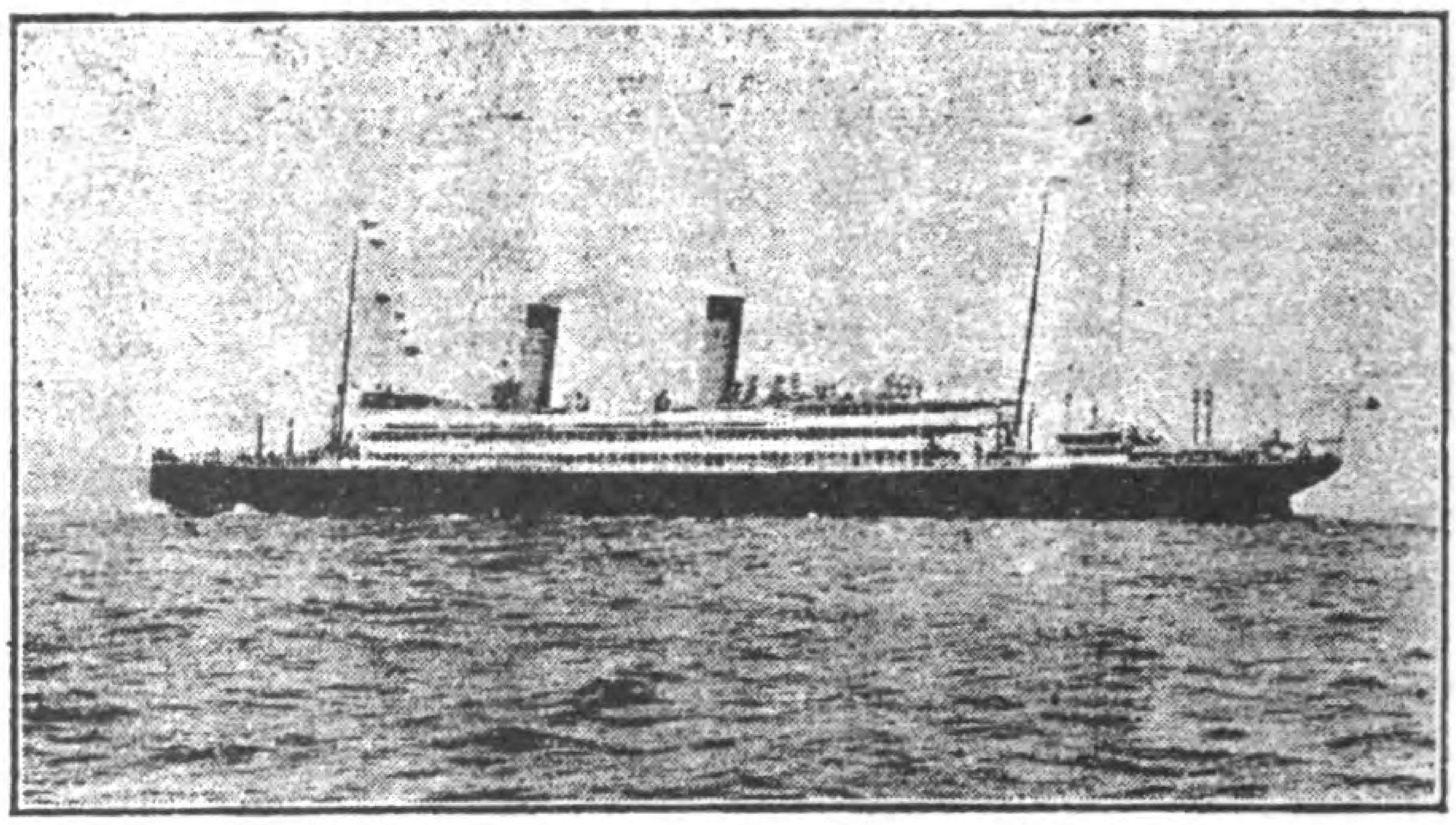
きそれから萬端の費へと致しまして、ほんの少しの高をお定めになりました。其中に家事一切が段段出入も劇しく仕事も手廣になりましても、それに從つて毎週の費をお增し下さろうとは思召していらつしやいませんで、物入の一番多う御座いました時でも、一週間七グルデンで都合をしろとかう仰せでしたが、それは貴方もまだお覺えでございませう、私はたゞ仰せの通りに致して居まして誰しも一家の女房が金庫の中から盜みをしようとは、夢にも思ふ者は御座いませんから、私は毎週の收入のうちから、餘分を取つておいたのでございます、併し私はそれを無駄遣ひしたのではございませんので、かうお打明けしないでも安心してあの世に參る事は出來るのでございますが、只私の後に家事を預る方が、これではどうとも手の出し様がございますまいし、あなたも前の女房はこれでやつて來たなどゝ仰せになりませうから、それでかう申上げたのでございます」

私は之を讀みました時、やむなく罪を犯す立場に置かれたM夫人を非常に氣の毒に感じました、こうした秘密の爲に長い年月どんなに不安な日を送りましたでせう、夫をあざむいた夫人の罪よりも罪を犯させた夫の罪の方が深いと思ひました。世にはこうした例は澤山あります、幼少にして親を失ひ食するに道なき時、他に養ふ人なく掏摸の手に養はれ、盜みする事を覺えましても其の子の罪と斗は申されません、罪を犯しますには元より本人に一番責任のあります事は申迄もありませんが、そこに至りますにはいろ〳〵同情すべき動機があるのも澤山あります、肉體の病氣の爲め精神に迄異狀を呈して居る場合もあります。遺傳的に罪を犯すのもあります、幼少よりの境遇の惡い爲めに、又は愚かにして罪を罪ともさまで感ぜぬ場合もあります。もし私共も其人人と同じ境遇に置かれ、同じ遺傳を受け、同じ程度の教育を受け、神をも知りませんならばどうであらうと思ひます、時に自分だけは立派なものと確信す

る事が出來ませうが、もし自分の心の底深く堀り下げましたならば、神樣の御前には何れが罪が深いか分らない事を感じます、私共は此罪人の謙遜と罪を犯すに至りし動機を察し、同情を以て罪人の友となり、共に罪の爲になげき、其人の眞の幸福の爲に神に祈ります處に、眞に罪にうちかたしむる力を與へる事が出來ると思ひます。罪に沈める人の心に悦びはありません、荒みひがめるものであります、此場合其罪をせめ、恥かしめ反省を促しましても、却て反抗せしめ罪を助長せしめる場合が多くございます。罪を賛成し、またあきらむる事は實に恐るべき事にて共に罪を犯すと同じ事でありませう、何處迄も罪は罪として戰はねばなりませんけれども、徒らに責むるは罪より逃れしむる道ではありません。たゞ神より出づる同情と愛に依つてのみよくし得るのではないかと思ひます。

　罪の芽のきざします時、早くふせぎます事も周圍の人の心持に依る場合が多くございます、墮落した家庭より不良の子女の出ます事は、申迄もありませんがこれ等は別として、時に非常に嚴格なる家庭より反て不良の子女の出る例も少なく御座いません。其初めに於て罪の現はるゝを恐るゝ餘り、之を蔽はんとして罪に罪を重ね、遂に如何ともなし能はざる場合に至ります事も多くございます。また私共は不良な少年少女を見ます時、直ちに其罪を家庭に歸さんと致しますけれども、不良の子女の家庭を必ずしも普通の家庭より惡いとも申されません、之等に對しても同情と謙遜を以て慰めを與へたいものと思ひます、之れ等の事は神を知り眞に罪人の謙遜を持つものゝみ、よくなし能ふ事ではないかと思ひます、主の聖句に「誠に爾等に告ん婦の生みたる者の中にいまだバプテスマのヨハネより大なる者は起らざりき、然れど天國の最も小さきものも彼よりは大なる也」（馬太傳十一章十一）と仰せられましたのも、此心持が含まれて居るのではないかと存じます。

東洋汽船株式會社



本社 東京市日本橋區通り一丁目（電話本局四〇八〇、四〇八一番 四〇八二）

營業所 横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一番 四四〇二、四四〇三）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング
上海四川路ノース、チヤイナ、インシユランス、ビルヂング
マニラ　チヤコビルヂング
桑港、マーケット街六二五）

北米航路（桑港、布哇、機濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルヽ、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、五〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

新設東京女子大學に就いて

安井哲子談

幾つかの米國のミッションボードが集まつて基督教主義に依り、日本の女子に高等の教育を授づけると云ふ目的で、遂に新しい女子大學を設ける事になりました。位置は柏木の水道淨水所の附近で、其處にある建物を假校舍として、來年四月から授業を開始する計畫であります。何分假校舍の事でありますから、初めから理想的に計畫することが出來ないのは殘念であります。假令ば時代の趨勢より云へば、女子に理科の知識を與へる事が必要でありますけれども、假校舍の事で充分の設備が出來ないので止を得ず後廻しにしたやうな次第であります。

學科、現在に於ては國漢文科、英文科、實務科の四科であります。

入學資格、五年程度の高等女學校卒業者及び之れと同等の學校の卒業者でありますけれども、四年程度の高等女學校卒業者でも成績優等な者は入學が出來ます。目的が篤學の女子に高等の教育を施すと云ふのでありますから、入學試驗なしに誰にでも入學を許可すべきでありますが、學科の程度が高く又成る可く自習自學の習慣を養ひ度いと思ひますので、餘り學力が足りなくては學習に困難と思ひまして入學試驗を行ふのであります。

試驗科目　國語（解釋、作文、文法）
　數學（算術、幾何の初歩）
　理科（物理、化學、動植物）
　英語（解釋、文法）

以上は五年程度高等女學校の卒業者を標準にした試驗であります。試驗場所は成る可く受驗者の居住

地か、又は其附近の地方に於て行ふ便宜を與へたいと思つて居ります。

專門學校でありますから、指定も認可もない女學校の卒業生は別科生ならば兎に角本科生としては入學が出來ません。合格者は先づ豫科（一年間）に編入します。

豫科を設置した理由

本科四年とする代りに本科三年に豫科一年を附け加へた理由は

一、ミッショスクール其他の高等女學校卒業者の英語の學力が、非常に相違がありますので、直ぐに本科に入れ同一程度の教授をすることは困難でありますから豫科で成る可く學力を揃へる考であります

二、高等女學校で學んだ日本の地理歴史の知識を整理し、日本國に對する明瞭な概念を與へ、又數學の知識をも整頓する考であります。

三、入學の初めに自分の希望する學科を決定させますが、人に依つては自ら希望した學科が不得意かも知れませんから、斯る人々が豫科を一年間學修する間に變更し得る機會を與へるのであります。

一般の生徒は豫科一ヶ年、本科三ヶ年、總計四ヶ年の學習で滿足すると思ひますが、最も少數の人は尚進んで一層深く自分の好む學科を研究しやうと思ふかも知れませんから、其の人々の爲に二ヶ年の專修科を設けてあります、此の科は既に學習した學科目のうちで、自分の好む科目を隨意に選擇する事が出來ますが、而し學校で要求するのは英語と第二外國語として佛蘭西語、又は獨逸語の何れかを學習させる事であります。

別科、篤學の女子で豫科や本科の學科のうち、一科目又は教科目を學習したいと云ふ人の爲に、別科を設けてあります、これには既婚の婦人でも誰でも、入學が出來ます（別科生は其希望する學科を學習する能力ありと認めたる者で入學試驗を要しません）

隨意選擇科目、豫科や本科の學科目を學習して、尚餘力ある人は自分の趣味に應じて音樂、繪畫、手藝

園藝、料理、裁縫等の選擇科目のうち、どれでも隨意に學習する事が出來ます、又タイプライターは實務科の生徒に隨意選擇させます。

本校が特に注意する點

一、成る可く授業時間を少なくし、生徒自身の研究する時間を多くする事であります。

二、常識養成を目的とする科外講演を豫科本科通じて、毎週一回開く事です。其題目と講師は豫め選定して、或る一つの題目の下に幾回かの繼續的講義をして頂きます、これには生徒以外の有志の婦人の傍聽を許します。

三、生徒をして學校と云ふ狹い範圍内にばかり生活させず、成るべく社會と接觸する機會を與へたいと思ひます。例へば別科生や科外講演傍聽者等に接觸するのも、純粹の學生以外の人々に接するので、或は慈善事業や、工場等を見學させる事なども、社會の他の方面の知識を與ふることであります。そして社會と自分との關係を充分に意識させる樣に努めたいのであります。

四、新しき試みとしては

(一)人文科、この科は頭腦のある常識の發達した人格の高い淑女を養成するのが目的で、職業的敎育を授けて將來獨立の生活をしやうとする目的の人よりも、寧ろ一家の主婦となるのに充分の素養を作り度いと希望する人に適します。

(二)實務科

(イ)第一部は商業の知識を有つ人を養成します。

(ロ)第二部は工場の監督者或は慈善事業に關する重な働き人を養成します。

附、東京女子大學は基督敎主義の學校である爲め、世間では基督信者でなければ入學が出來ぬと考へる人もあるやうでありますが、決してさうではありません。勿論基督敎主義に依り人格敎育に重きを置きますが、偏狹な宗派に拘泥しません。故にこの學校の主義に贊成ならば誰も入學が出來ます。

入學試驗　三月末の見込

受驗料　二圓
入學金　二圓
授業料　豫科三圓本科四圓、專修科五圓
別科一科目以上三科目迄一圓
四科目以上二圓

隨意選擇科目に對しては學科に依つて特別に授業料を要する場合があります。(例へばピアノ或は繪畫の類)

寄宿舍、遠方から來る人の爲に寄宿舍を設ける積りであります。舍費一圓五十錢、食費は物價の高低に依つて相違しますが、物價騰貴の現時では八圓五十錢の積りです。



和歌

海邊松

金子薫園

海樓にわがめさむればほのぼのと硝子戸透ける松の青しも

東の海うらうらとのぼる日に磯松の葉はみな光りたり

しらしらと夜明けの濱をあゆみゐる鷗の脊に松の葉のちる

松に倚り潮待舟のへにあそぶ鷗を見ればたぬしくもあるか

海道の月明らかに波しろき千本濱の松ばやしかな

露國近況

ミス　フツクス

左の一文はペトログラアドから先週日本へお着になつたある若い婦人のものせられたものでございます。此方は十一月十二日露都をお立ちになつて十二月四日に日本へお着でございました。

戰爭の初に當りて

宣戰の布告はたゞ事情によく通じて居つた外交團の連中の外、全露國民を驚かせました。大概の人は露國と獨逸との間に戰が起る等といふことは絶對にあり得べきことでないと思つて居りました、私共は常に獨逸人を私共の隣人とも友とも見做して居りますし、皆は獨帝が露國に對する友情や平和を維持したいといふお望みを表はされました美しい言葉をよんで居りました人々は、何故戰爭が始まるのであろうかと尋ねました。或者は獨國は新領土がほしくなつたのだといひ、他の者はセルヴヰア人が墺國皇儲を弑したので、墺國が塞國に宣戰をしたところ、露國は同じスラブ族の國としてセルヴヰアを庇護しやうとしたからであると申しました、然し此國の人々はまだ眞底には達して居ませんでした。獨逸が國境で二三の都市を占領しました後で、ザーが露國の領土から敵が一人殘らず逐はれてしまうまでは決して講和をしない、と嚴肅に申されました、それで私共が全くそれを悟らぬ内に戰が始まつて居たのでございます。

露國で動員が始まりました時、政府はアルコホル禁制令を發布いたしました、幾世紀間もアルコホルは多くの人命を傷めました。露國の勞働者は家族を悲慘な樣に打ちすてゝ賃金を總べてアルコホル分の爲に費消してしまひました、それでもアルコホルを賣れば政府に利得がありますので以前にはこの樣な

禁制令を發しやうなどゝ考へも致しませんでした。
ペトログラードの或大工場の持主であつた或米國人が私に「自分は職工の賃金を增さうと思うが自分はこれは少しも改善せぬのみか、かへつて所持金をアルコホルに使つて仕舞うので仕事に歸らぬ、職工自身にも害になるし、又彼に賴つて居る家族を一層悲ませる斗りであるから、どうも良心が許さぬと申したことがございます。

扨て動員が始まつた時、召集せられた大勢が若し飮酒したならば、大變な害を醸すと思つて居ましたので、それで此樣の禁制は非常な減收を來たすにもかゝはらず、舊政府は此禁令を出した次第でございます。

革命以前は露國では政府の役人に賄賂を送る丈の金さへあれば、どんな事でも出來ました。これが政府に務めて居る誰にも適用せられて、ずつと低い者がずんずん昇進して大臣にもなり、皇帝の最近親者とも肩を並べる樣になりました、若しどうかした機みで正直な人が政府のお務をするやうになりますと自分の意見や方針を變へて他の者と同じにならねば直きに止めてしまいました、政府の註文等でも極確な品を納める商店や、割のよい値段で納める商店へは渡さず、役人に最も多額の賄賂を贈つた者に命ぜられました。政府の用達をして居る者は自身のもうけを多くし、又役人への賄賂をも差引く積で、不正な値段で極く惡い品を納入しました、この樣で政府に絕えず暴利を貪られて居たわけでございました、そして公職に居る間に財產を仕上げた大臣も大勢居ましたが、いよ／＼戰爭が始まつた時は軍需品や陸海軍は、實に憐れな狀態でございました。彼等は盲從させられました。若し從ひませんと打たれ傷つけられ、動物の樣に取扱はれました。下層社會は暗闇の樣でした。彼等の家は塵に覆はれ、彼等の衣服は塵臭うございました。彼等は露西亞風呂へ行くことは出來ますが、めつたには洗はうともしませんでした。彼等の或者は少しはよくしつけられましたが、

それも唯お金持の都合のよい様に金持に仕へて金持の生活を愉快にするに好い位な程度でございました。勿論此等の下層民の極々僅かの者は主人の恩を感じ、屡々主人の爲に死なんといふまでに彼等の主人に懐いて居る者もありました。露西亞の富者は寛大なので好かれました、殊に莫大なお金を費ひに行きました。獨逸では大變なものでございました、彼等は貧民に吝嗇ではございませんでした。所有者が努力もせずに得ましたお金を撒き散すことは容易なことでございますから。それが露國に乞食の多いわけでございます。全く若い健康な者が物乞ひをして居る事が度々ありました、それは金持が乞ひさへすれば、誰にでも無暗に與へましたので此方法で暮しをする事は容易く、收入が多いことを知りました故でございました。

　民衆が守るべき大變厳しい法則がありました。巡査はこれ等の法則が守られて居るかどうかを注意深く見張つて居りました。然し巡査に賄賂を贈らうとさへ思へば誰でも勝手なことが出來ました。罪人や盗賊でも望みさへすれば放免されますし、亦誰か政府に就て豪膽に何か云ひますと、西比利亞へ遣られたり、急に全く居なくなつて誰も跡をつける事も出來ませんでした。例へば開戰後政府は獨逸人に皆ペトログラードを退去する様に命じました、而し實に大勢殘留して居ました、それ等は警察署の長官に賄賂したのでございました。若し裁判官が賄賂を受けますと、罪の無い者にも有罪の宣告をし、犯罪者や有罪者をも放免しました。

　開戰の丁度前に全工場に大同盟罷工がありました。ペトログラードの或大工場に大勢が押し寄せ、向ふで巡査が見て居るのに窓を破壞し始めました。工場の管理人は群集に發砲して、一職工の足を射ました。其職工は法廷へ訴へ出ました、そして該職工に對して管理人より四千留を仕拂ふ様に裁判官が申渡しました。管理人は自分の辯護士に上級官廳へ申請させ自分は此金高を仕拂ふが、職工へは拂はぬ

と申しました。そこで上官廳の裁判官にそれを拂つて其事件は落着しました。

露國では自分の宗教に對して敬虔なる念を抱いて居る人々が、僧侶を少しも尊重しませんでした。それは彼等が屢々飲酒をしたり、官吏と同樣に收賄することを知つて居たからでございました。

賄賂により試驗に合格して學位を得る

此の樣な狀態でございましたから、政府の重要な地位は決して才能のある適當な人に占められませず、上官の後援ある人によつてのみ占められました。

それで辯護士が林務官になるといふこともありました、それは地位を索めて居ました辯護士が、長官を知つて居た爲に林務官にされたのでございます。官吏に義務とか責任とかいふ考は少しも有りませんでした。最上級の役人でも自分等の地位を只私腹を肥す好い機會位に考へてゐました。

平時には此組織が順調に進んで居ました、極度に悲慘な境遇の者も兎に角飢えない丈けに口を糊しました。然し戰爭はさうは參りませんでした、處理の惡かつた爲に萬事が非常に苦しい狀態にある事が程なく知れました。軍需品は無く兵士等は空手で敵と戰つて居ました。運輸の便も充分なく、塹壕生活は第一窮境に陷りました、運輸の狀態が惡いので獨逸に占領された地方から避難民が群つて來た。ペトログラアドやモスコー等の中央都市に食料品を送る事は不可能でございました、食品、物品、被服の缺乏と其等のものの需要とは物價の騰貴を來しました。それで自分等の事をのみ注意して居た役人と、警官との他は戰線に居る者も國內に居る者も、總べて難儀をして居ました。それで當然の結果として革命が起りました。世界史上この樣に容易に仕遂げられた革命はありませんでした。大臣は捕はれ警察裁判所等は燒かれ、警官も殺されたり燒かれたりしました。然し個人や私有財産は殆ど手を觸れられませんでした。革命は十分に承認されました。舊政府の重

荷が除かれました後、眞に彼等の國家や國民を愛した人々で組織されて居る假政府が、萬事滿足に處置するであらうといふ期待がどこにもありました。然し不幸にも、愛國主義や理想主義や美しい言葉等は帝王主義の倒れた後の露國のやうな狀態の國を統治するに、丁度要求されたものではありませんでした。假政府の人々は組織の才能や事業の經驗を缺いて居ました。そして確かに失敗しました、それは必要な資格を備へた人々でも、困つたでございません樣な場合でしたから。彼等は誰にも絕對の自由を與へるのが自分等の本分であると思ひました。然し前には自分等の權利を限られて居た露國人はか樣な絕對の自由を得て爲す所を知りませんでした。彼等の最初の考は「仕事をせずに多くの金を得る」といふ事でございました。軍需品製造所や其他の工場の職工等は、露國の領土の大部を占領した敵をも全く打忘れ、自分等の自由を打喜び赤旗を押立て日々ペトログラアドの街を歩きました。兵士等の自由に對する概念は先づ彼等が最早や將校の命に從ふ必要もなく、塹壕を去つて割合に愉快な生活に歸ることが出來るといふのでございました。これ迄部下を惡く待遇した將校は多く殺されました。紀律は全く失くなりました。

舊政府は責任も本分も盡さずに只全權を有つて居ましたが、假政府は全責任を負ふて、總ての權利は少しも有ちませんでした。彼等は彼等のする事は何事も職工、兵士の委員會に對した斗りで無く、一寸した職工、兵士の會合に對しても一々說明を與へねばなりませんでした。

兵士等は戰線では生活不可能でありましたので、戰地に滯らふとはしませんでした。彼等は如何なる犧牲に依つても平和を欲しました。職工は自分等の製作する總ての物品の價が騰るので、生活が一層困難になるといふ事も悟らずに、法外な賃金を要求しました。農夫等は食物には稅を課せられたので「自分等の買はねばならぬ物は總て法外な價を拂はねば

ならぬ故自分等はさうは出來ぬ。」といつて食料品の供給を拒みました。それで革命後は革命前より生活は一層惡くなりました、然し舊政府が尙權能を有して居たなら、これ以上惡くはならなかつたであろふといふ意味ではありません。生活狀態が改良されませんので、人民は假政府に對して不滿に思ひました、そして如何なる犧牲を拂つても講和をしやうといふ激しい說が益々稱讚されて來ました。兵士等は露國にはまだまだ廣い土地が澤山あると考へて、ボルチツク地方の樣な自分等個人としては所有しやうとも思はぬ、一片の土地の爲に棄てるには自分等の命が遙か貴重であると思ひました。多くの者は「獨逸人を來さすが好い、少くも秩序が生じて兎に角生活は、現今より惡くなる筈がない。」と申しました。社會主義者の統領は全世界の民主黨が合同して、諸國に講和を促すであらうといつて講和を論じて居ました。彼等は「併合」とか「援助」には反對でございました。彼等は聯合軍が獨逸から土地を取りたいので、戰爭を續行して居るのであると申して居ました。然し彼等は獨逸が自分の手に露國の大部を取つて居る事を悟つては居ませんでした、彼等は彼等の意見に從つて職工よりも勞力を發露しないで富有になつた資本家には反對でございました。工場や製作所は全然職工の管理の下にある筈だといふのでございました。彼等は廣い土地の持主に反對でございました、彼等其領地を各自が自分で得た物でなく、昔の露皇帝の或る者に氣に入りであつた、彼等の祖先が得たものであるから、不法のものと考へて居りました。總ての露人は自分の働で取れる丈けの土地を取るべきだといふのでございました。露國で最も暗黑な一種の群集は直にこれ等の理想を好み、國內で出來る限り速かに窃盜、掠奪、殺人を致しました。ペトログラードでは個人の所有產は手を觸れられませんでした。

　敎育ある露人等は何事につけても悲しい事に感じました。彼等に聯合國に對する責任を感じ獨逸が全

滅させられた後に始めて平和が來るといふ事を知つて居りましたが然し彼等は何等の權力もありませんでした。彼等の生命財産は危險に陷つて居りました。彼等はペトログラードを去らうとしました。然し極く僅かな列車しか間に合はされんので、彼等が立ち退く事は大變困難でございました、ペトログラードに於ける飢餓を免れ得るかも知れぬが、自分の知已も無い田舍に行つては盜賊に殺されるかも知れぬので、何處へ行つて好いかわからん者が非常に多數でございました。汽車は大變込み合ひましたので兩足を下す餘地もないので片足で立つ者もあり、數日間身動きもならず仕方なしにじつと座つて居る者もありました。遙か西比利亞に至る途中食物は好くなりました。然し到る處毎に不秩序といふ同一の感がありました。

十月二十九日に過激派はペトログラードの總ての物を全部自分等の手に握つて仕舞ひました、或人々は過激派は誰も彼等と戰かふ事が出來ぬ程好く組織されて居るから、獨逸から報酬を受けて居るのである、そして彼等の態度は獨逸人の氣受けが好いと申しました。露國が如何なるか、社會黨の理想が實行されるか、どうかを云ふは六ケしい事でございます然し人世と云ふ物に殆んど價値も無く、法律も無く責任ある政府もなき現今の同國に於ける生活は確に非常な難事でございます。

戰時のアメリカ

ミスベーカー

私は一ケ年前に世界の大戰亂の端にあつた我米國を見に參りましたが、歐洲の戰雲は程なく我國へも襲ひ來りて今や國家は益々多事ならんと致して居ります。米國での話といふ話は皆戰爭の事で持切つ

て居りまして、此際家を外にして遠く旅行するなどは容易の事で御座いません、從つて總ての事は人手を煩はさずに皆家庭内でする樣に努めて居ります。殊に「戰爭活動」などは有力な、そして閑暇ある人々の助力を待つ樣に見受けられます、それで旅にある人は國の樣子や、知己、朋友の消息を知るのも容易では御座いません。

戰爭は何時も婦人に特別な責任をもたらし、婦人は其の子、兄弟或は夫を心よく出征さすべく要求されて居ります、唯一人の愛子或は夫を戰場に見送りし一部分の婦人にとつては、一通りならぬ苦痛では御座いますが米國一般から申しますと、歐洲諸國に見る樣な悲慘な有樣は、只今の處我が國ではまだ見ずにすんで居りますけれども如何なる事に遭遇しやうとも差支のない樣に、來らんとする日の爲に準備怠りなく致して居ります。又婦人は物を節約して戰爭に依つて被むる難澁を出來るだけ避けて、國家を保護する事に努めて居ります。主婦たる者は皆儉約せよ儉約せよと云はれて居ります。私の母などはワシントンのフーヴァ氏の組織された保存會へ入會致して麥、肉、バタ及砂糖などを平時よりも節約し、或日は料理にバタを入れなかつたり、又キャンデーの代りに一寸した菓子を用つたりして、出來るだけ生活を簡易に致して居ります、何處の家でも斯く節約して居りますから、軍隊の食糧などは充分に貯へられ又歐洲の食糧に缺乏を來してる國々へも充分に砂糖を輸送する事も出來るわけです。

此頃は庭と云ふ庭は皆畑に變つてしまひました、私が此春旅行致した時なども加洲の鐵道の本線路に沿ふた近傍の庭は皆野菜畑となつて、美事に植付けられてあつた芝生なども今は一面に馬鈴薯畑となつてしまひました。國の母なども此頃では畑を作つて四季折々に變つた野菜を植えて居ります、それは私共が市場に買物に出掛ける手間を省くばかりでなく第一に市場の食糧を消費せずにすむ事となります。何處へ參りましても戰爭の爲の救濟事業が組織され

て居つて、小さな町や村に至る迄赤十字の支部が御座います、如何に貧しい婦人たちでも編物や又小切を切つて枕様の（傷の下へ敷く爲に）物を作る手傳を致したりして居ります、私が日本の青年會に就て話に參りました諸學校の過半は皆繃帶巻や、外科醫用の服等縫つて居りました、共同教育の學校の上級の男生は殆んど入營して居りませんでした。何處の學校でも男生よりも女生が多數で御座います。國家の爲に充分の働が出來ないとは誰も申しません、何となれば何等かの方法で誰でも何等かの働が出來ます。或子供は毎日電車に乘らずに通學致して其貯金を赤十字へ送つて居ります、又或る子供は放課後に庭を耕やし豆を作つて市場へ賣りに參ります、たとへ上流の婦人達でも各自の畑を自分達で耕やして居ります。本年五才の私の甥ですら食卓にのせられたものはどんな食物でも、決して不平を云はずに食べて兵士を助けなければならないと敎へられて居ります、私共の町に大きな兵營がありますが、遠からず市民の半は制服をつけた兵士が埋められる事と思ひます、私は數日前櫻木町停車場（横濱）に立つて入營する人々を眺めて居つて、自分の國の停車場で十月に市の將校や赤十字或は樂隊などに送られて、入營せんとする新兵を見ました事を思ひ出しましたが、其時は何となく勇ましう御座いました、然し見る人一人として嚴肅な態度を表らはして居ないものはありませんでした、其時私は父の友人で高等學校の敎師をなすつてる方の傍で見て居りましたが、二百人の青年の内二十五名は其方の生徒だと申され、一々其生徒達に「グードバイ、ガード、ブレス、ユー」と握手をされましたが見て居る者は皆感動されずには居られませんでした。

今や米國は漸く戰爭を痛切に感ずる様になつて參りました、それで母親は心よく其子供を出征させて居りますが、その度毎に親達はこれが最後の戰爭である様にと心密かに祈つて居ります、私共は此世の苦痛から逃れやうとは思ひません、唯喜んで人々の

受くる難澁を自分もわけて貰ひ度と思ひます。もう一つ申上げ度い事は、私が國に居りました時に日本の一婦人にあひました、其方は看護婦で御座いまして自分を忘れて異鄕の日本婦人達の爲に働いて居られます、彼地へ行つて居る日本婦人で育兒法などに關して、全く何も知らない人々が澤山御座いますので其等の氣の毒な人々の爲に働くやうにとて其看護婦を市で雇つて置きまして、日本人の家庭を時々訪問される事になつて居ります。

ロシアの婦人がお出しになつたお話を此雜誌で御覽でございませうが、ロシアの國內は只々大變な騷ぎで、おそろしさの餘り日本へ避難する人が澤山御座いますが、日本などは殆んど靜かで平和の中に日を過して居られる事は感謝の外御座いません、私共は銘々キリストの爲に世の人々と共に苦痛を分ち度ふ御座います。

上海行

河井道子

熊野丸は無事なる航海を經て十一月廿六日上海に入港す。橫着の便利あれば甲板より陸地の模樣を見守るも面白く、活動寫眞を觀る心地しつゝある中に大谷虔牧師の姿、目に止り、氏を圍む數人の婦人中には岸文子姉(舊齋藤)の顏も見えしかば、こは我を迎へんとて待ち居らるゝ敎會の姉妹方なるを知りて嬉し。船より陸地にかけし梯子には既に日本人と支那苦力(勞働者)との喧嘩に膽を冷し、呆然たるが中に出迎の諸兄姉甲板に昇り來られ荷物の世話などせらる、其中に後れ馳せに來り急ぎて挨拶されしは十

年以前英學塾に通學されし鹽濱咲子今の大西夫人なりき。意外の處にて昔の知人に遭遇するは旅行の賜なり。

上陸後直ちに日本領事館内の岸文子樣の住居に導かれ、集會等の協議をなし、午後は訪問を受けたり。領事館は海岸に面したる四階の煉化造にして、米領事館に隣りし、又歐洲諸國の領事館も其の附近なり、階上より米、佛、英租界の大厦高樓の海岸に沿ひて連立せる眺望は、到底日本國内には見る事難し。

岸副領事は溫厚篤實なる紳士にして、公平と親切とを以て在留民中に聞ゆ。如斯基督者の上にありて權を執らるゝ事は我等無上の歡喜となす處なり。文子夫人も年若にも不拘信仰を基礎として內外に心を用ゐ、しかも浮薄虛榮に流れず眞心を以て人を歡待さるゝは、平素母公の御教育と祈禱の効果なるべし。

上海二週間の滯在中殆んど一週間は岸氏の宅にて厚きもてなしを受けたり。抑々今回の上海行は同地の日本人基督教會婦人會の主催なる傳道集會を援助せん爲なり。集會は一般的公會と家庭集會との二種にして、每日午後二時よりと夜七時半よりとす、午前にも二三回特別のものを開きし事もありき。上海にて日本婦人が精神界に如斯計畫を立てゝ是を履行せしは、今回を以て嚆矢なりとか、然れば準備行屆き祈禱を中心とし訪問、廣告等には手落なく眞に協同精神活躍たり。信者の男子方は陰陽共に相扶け、殊に夫人等の爲め外出の便を計り、食事の手傳ひまでもされし如きは信者の家庭ならでは、聞くを得ざる美談なるべし。

集會者の多數なりしは日本人倶樂部にての三百人なりき。來會者は大多數男子にして「男女交際と基督教」と云ふ如き突飛なる演題なりしも、至つて眞面目なる靜聽を受けしは神の靈の働と謂ふべし。

上海にある日本人數は目下一萬三千餘人にして、其中家庭を作すは少數なり、基督者の數に至りては

異動多く、又日本にありて信徒なりし者も斯地に渡りては様々の事情よりして、信徒たるを世に公にせざる者もありて、確實の調査は六ヶ敷く約百人程の數は知れ居るも、此他にも多くの信者あるは必然なり。教會と云ふは大谷氏の牧せらるゝ日本基督教會一つあるのみにして、信徒は各派の連合なり。此外に神愛館と稱する傳道所ありて、館主ミス、スミスは英婦人にして過去八年間獨立にて上海の日本人間に種々のよき援助を與へらる。同館は英國基督教信者の家庭風に則り相當の位置を占むる獨立の日本男子の爲めに寮舎を設け、日曜には禮拜堂にて傳道集會、聖書研究、日曜學校を開き土曜日には少年團の樂隊練習あり、夜は近隣の戸別訪問傳道又路傍にて宗教小冊の配付あり、其他英語會、病人救助、婦人救濟等、衆目を惹かざる陰德の働は敬服の外なし。吉永氏は平信徒として多忙の職務の傍にミス、スミスと協同して傳道、救濟等に盡瘁さるゝは現今の青年實業家の模範たり。近き將來には同館に牧師を置きて愈々教會組織として發展を計らるゝ由、日本人間に基督教宣傳所は此二ヶ所あるのみにして、何れも進歩の吉兆あるは歡喜の至なり。

家庭集會は社會の階級を問はず、貧富の別ちなく富貴の家庭にも又貧賤の家にても區別なく諸所にて開かれしは、委員等の度量の大なると規模の深遠なるを示して餘あり、是迄臺灣、朝鮮傳道の後援をせし事あれど此處に二日彼處に二日と送りやられ、今回の如く一ヶ所に二週を繼續して働きし事なければ、人々と親しむの機會なかりしも、上海にては同じ人々と屢々相會する事を得て、何となく睦まじき心地して尚一ヶ月も滯在せまほしき思せり。殊に思はざる處に友人を見出すなど、又新に得し友人も舊友の如くに親しむは實に信徒の特徴にこそ。先づ思出のまゝに逢ひたる人々を列記せば、中村たま子夫人、鳥越夫人は横濱共立女學校の出身にて兩家共夫妻心を合せて御名の爲に努力さるゝは、ルミル校長へ何よりの御土産として報知したし、松本さく子夫

人は廣島女學校の御出身にて、十才を頭に八人の愛兒の母君にて高貴の地位にあらせられても尚よく他を思ひ信仰を養ひ、夫君の昨年受洗されしも夫人の祈と實行の力なりと信ぜらる。安部實世夫人は横濱屈指の實業家增田屋安部幸兵衛氏の令孃にして、夫君安部氏と共に上海にて洗禮を受けられたり。信仰の最初の動機はと尋ねしに、「何處に行く」を讀みてなりとの御返事なりき。多數の會社員を使用さるる御主人と共に信仰に進みて向上を計らるゝ御芳志賀すべく、集會にも御兩人にて屢々出でられしを感謝す。「女子青年界」を毎月三十部引受けんと自ら進んで申込まるゝなどいかに奉仕の道を實行せらるるかを窺ひ得べし。同家にて御馳走に預り家庭集會を爲し、樂しき一夜を送りしも樂しき經驗の一つなり大西咲子夫人は御主人の留守中暇なればとて、親切に甲斐々々しく萬事に行渡りたる歡待なし下されしに心ひかれて、飛び〳〵に三泊を同氏方になし、十年前の英學塾や、舊友の身の上を語り、神の國と其正義を求むる必要を說きなどして、心行くばかりに夜靜かに語り合ふを得たり。四才になる坊ちやんの、「マヽさん古伴友(親友)の偉い小母さん」と云ふ長々しい名稱で呼び具れる可愛らしさ「マヽ小母さん寒いから湯たんぽ入れて上げて、小母さんパパ歸へつて來てもいらつしやいね」何處迄も可愛らし。此坊ちやんの言葉は母親の人々に親切なる心根の反響と聞えて、今更の如く家庭の感化に氣附かれぬ。斯る小供等が神の家庭の人となりて、神の心の彼等に常に映づるを願はであるべき。内山みき子樣は堅古愛子氏の「伏屋の曙」を讀みて求道心を起し五年前京都の牧野牧師より受洗されしとか夫君完造氏も牧野氏のお弟子にして御夫婦の信仰は誰かを動かさで止まざるものあり、終に小原榮次郎氏同すゑ子夫妻を神に導かれし其經驗談及び小原御夫妻の信仰生活の發展は殆ど現代使徒行傳を讀むが如し。斯る實驗の基督教で枯死無身ならんや。神は今日も大々的奇蹟を行ひ、我等を覺醒しつゝあるなり。斯く上海にて親

しみし人々を一々紹介せんは到底不可能の事なり。いづれ順を追ふて書き列ねん。神の道を述べ傳ふるは實に樂しきものとの經驗を味ひし此身は幸福にて今回第一に祝福されしは我なるべし。二週間内に前後卅回の集會と、多くの個人訪問をなし、諸所に招かれて御馳走になりたれども、何の疲勞も覺えざるのみならず、多くの友人を與へられ、新しき經驗をなし信仰を勵まされしには只感謝あるのみ。

受洗者、求道者の名前を集めしはたゞ一回なりしを以て、僅に九名の受洗者と十餘名の求道者の名を得しのみなれども、神は必ず播きし種子を成長繁茂せしめ給ふなるべし。又在留の信徒諸兄姉は祈と同情と努力とを以て其收穫を收められん事を祈る。

女子青年會本部主催 音樂會の記

十二月十五日、朝のうちは大分怪しかつた空模樣も、お午頃から、薄ぼんやりと、太陽が見えるやうになつた。主催の方々も愁眉を開かれたらうと、此方まで安心した氣もちになつて、美土代町の靑年會館へゆく。自分にとつては改築後初めて來たのであつた。二階の入口まで來ると、S樣が嫣やかな笑顏で馳けて來て、今日の記事を書いてと云ふ。雜誌の編輯間際の多忙さが顏に見えてゐる、自分も御同樣の經驗をしはじめてゐる身なので、同病相憐む點からはお引受けしたいものの、音樂には生憎聾だ、といふと、S樣は私も然うだといふ、同病相憫む點が段々增えて來た。

よく批評をしたあとで、「妄評多罪」なんて書く人があるが、自分は聾なのだから、そんな罪を犯す心配がない丈は確だ、が、それと同時に、これは、自分は音樂の批評をする資格がないのを裏書してゐるわけだ。

井深夫人の明晰な開會の辭がすむと、原夫人がウエバ作ロンドのピアノの獨奏があつて、次は三氏のフアウストの三部合唱、ハンソン氏のヴハレンタイ

ンは謹直なたいぶりに、敬虔な青年を偲ばせた、ミスオルチンは餘裕があつて、慣れたものである。アンドレー氏夫妻ことに夫人の勞を多とする。次はミスマギーのヴアキオリン獨奏、ドリゴー作のセレネード、お終の方は人の心を夢の國へ誘ふやうに、淡い然し魅するやうな艶情の盡きない音が、細く細く流れて消えた、次のリベスフロイドは大層快活な調で、若い學生の聽衆はみんなうれしさうな笑をたたへて靜聽してゐた。これで一部が終り、一寸休憩があつて、第二部は又井深夫人の温顔を以て始まつた。

　夫人は聽衆一同に丁寧な挨拶をされ、簡單に女子青年會の趣旨、即ち誘惑の多い若い女子を指導し基督教の精神を以てたすけるといふことを述べられ、事業に對する賛助を乞はれた。

　ミス、シエレシエスキーの所作が始まる。リア王の第二幕第一塲である。自分が今日此會へ來たのは八分通は、白狀すれば女史のリア王を見たい願からであつた。今、一徹で癇癪持のリア老王があらはれるかと思ふと、輕薄で口先ばかりうまい二人の姫になり、こんどは率直で内氣な末の姫が語つてゐる。少しの無理もなく、無駄もなく、忠義な家臣や、輕薄な、或は忠實な戀人等の人物は活躍する。シエイクスピアの人物は個々がみな生きてゐるからだとはいへ、シエ女史亦決して凡手ではない。隣席のある英學校の先生は、今日の會が恰も學校の試驗中で、生徒達が來會し得なかつたことを非常に殘念がつてゐたが、自分も同感に堪へなかつた。シエ女史の所作を見る機なかりしこと十餘年、當時美をうたはれた紅顔の彼女の鬢髮は已に雪白の霜をいただいてゐる、聖書を漢譯して支那に永久失はれざる寶を與へた聖公會監督なりし父君既に世を去り、尋で異國に母君と別る、双鬢の霜は、史女にあつては、徒らに異國に老いるをなげくよすがとはならぬ、誠に孝養の冠、勝利の冠、床しくも又尊い。女史の孤獨を憫む者があらうか。綾羅錦繍の裡、否家庭生活の裏に

さへ、女史以上の孤獨の婦人は無數にある。千古の文豪の傑作を、舞臺に活かさんとする時の女史を見よ、更に活かし居る時の女史を見よ、其所には現はれ居る世の實相の一部あるのみで、もう女史はゐないのである。藝術にかくまで沒入し得る幸福さよ。願はくは女史がその愛人なる藝術に對して、いつでも、火のやうな熱情を捧げてゐることが出來るやうに、と自分は心に念ぜざるを得なかつた。所作のあの刹那、女史には、老も孤獨もない、ましてや物寂しい眼もなければ、沈んだ顏色が見ることは出來ないのである。昔はただ美しいと思つて女史を見た。けふは尊さに交つた悲壯の感を以て見た。

次はミス・オルチンのアヴエ・マリア、落ついたマツーアからアアメンと靜かに歌が終つたかと思ふと聽衆は大拍手で、三度女史が現はれるまで、手を拍ちやめなかつた。折角アヴエマリアの祈りの歌聲の、餘韻餘情を味ふときを、拍手でつぶされて了ふと思つた時、驚いたではないか、さういふ自分も一緒になつて拍手してゐたとは！この方が自然だつたかも、又は禮儀だつたかも知らないが、自分は一寸馬鹿馬鹿しくて、恥かしい氣がした。

初め靜かに、次に陽氣な、しかし品のいゝ、ヴアイオリン獨奏は、ミス・マギーであつた。纖手のはこびの美しさ。終ると、聽衆は手を拍ち通して所望したので、桃色の服裝の可愛らしいミス・マギーは無邪氣な笑顏を舞臺にまたあらはして、おとなしい曲を奏した。打止めは原みち子夫人のショパンのピアノ獨奏、聽衆はさかんに拍手して、きかれない無理な顏をしたほどであつた。

來會者はみな滿足の樣子であつた。「いゝ音樂でしたね」といふ、英語や日本語が彼方此方の群衆からきこえてゐた。

日本の女子に對する厚い友情から今日出演された諸兄姉には感謝を禁じ得ない。

年の暮と、試驗とで、だれもみんな同樣忙がしい時であつた爲に、このいい音樂會、ことにミス・シ

エレシエスキー女史の獨劇を、より多くの學生に見せ得なかつたことは殘念である。が、それより一層、全國女子靑年會の幹ともいふべき本部の會のために、會員諸姉が、應援の暇も十分無かつたことが殘念である。（MM）

雪子さん

暮の買物で皆が忙しさうに歩いて居る人道の眞中に、邪魔になるなどゝは心附かず、じつと立止まつて居つたお婆さんが、

「あれ、小供が轉んだ！　泣いて居るから怪我でもしたのではないかしら。おこしておやりなさい。雪ちやん」と云ひました。

「お祖母さま、あの子は汚いからおこしてやるのはいやですわ」

「雪ちやん、汚い子でも奇麗な子でも怪我する分には同じですよ」

雪子さんは歎息をしながら、さも慈善者の樣な風をして泣いて居る子をおこしてやりました。

「あゝ、額だつた。可憐さうに」とお婆さんは額の傷にそつと觸つて袋の中から藥を出して、

「泣いちやいけないよ……どれお婆さんがお藥をつけて、この淸潔なハンカチで縛つてあげるから」と云つてそつと縛つてやりました。

「少し癒たらう……あゝもつと良いお藥がある」と云ひながら飴を一片口に入れてやつて

「これですつかり癒たでしよ……」

雪子さんは赤い頰をして、

「お祖母さま、早くいらつしやいよ」

「まあ待つておいで……」

だからお母樣は私がお祖母樣と一緒に買物に出る事を餘りお勸めにならなかつた筈だ。

雪子さんはお祖母樣をつくづく見て、お家のお祖母樣は人がたかるやうな事を爲さらなくとも、あの妙な舊式の服裝をしていらつしやるから、人がたか

つて來るのだらう。なぜお祖母樣は冬子さんの處のお祖母樣の樣に髮もきれいに結つて着物も當世のをお召しにならぬのかしら、そしてあの可笑しな黑天鵞絨の袋をはなさず持つておいでになるのだらう、何時か差上た袋はなぜお持ちにならないのかと考へました。

「お祖母樣、なぜ新しい袋お持ちにならないの」と雪子さんはお祖母樣がお出かけの時には必然聞くのでした。

「あれは皆立派で薄荷のお菓子や、お藥や伴奏膏や眼鏡の筒等入れるには勿體ないからね……」

「けれどお祖母樣の袋は餘り貧弱ですわ」

「雪ちやん、この袋こそ皆さんをお助けしてこんなにすりきれたのだよ。お祖父樣のお亡くなりになる時に私にこれを下すつた、だから私はこれを持つてお前のお家にきたのだ、この袋は御婚禮の式に行つた事もあるし、お葬式にも行くし、敎會のお金も集めたし、井上さんの赤ちやんの產着の布も入れて行つた、だからお祖母樣はこの袋なしではどんなに淋しい事だらう」とお婆さんは袋の紐をひきながら申しました。

雪子さんはある大きな店の前に來ると、

「お祖母樣此處が三越です！　何一番先きに買ふのでせう」

お婆さんは袋の中からクチャ〱の紙切を出して、

「雪ちやん、お祖母樣眼鏡を忘れたから讀んでおくれ」

「薄荷のお菓子……キャンデーは地下室」と雪子さんは讀みました。

「さあ、エレベーターにのりませう」

お婆さんはクス〱笑ひながら、

「まあ此處は變な處だ。飴もあれば反物もあるしお道具まであるんだねー」

二人がお菓子の賣場に來るとお婆さんは小さい聲で店員を呼んで、

「紅白の飴を下さい。これはお年玉にもつていだ

二箱買ひませう。あゝ一寸待つて下さい。淸子さんと信一さんと惠子さんと、あゝ三箱下さい」

「雪ちやん、今度は何を買ふのかね」

「お人形！　淸子さんは西洋人形がお好なの！あすこに御座いますわ」

お婆さんは人形の店の前で、あれにしやうか、これにしやうかとかなり永く考へて居りました。雪子さんはもう十二時過ぎたので氣が氣でなく、品書の紙を見て、ポンプ、赤い車、毛糸、春ちやんの羽織赤坊の着物、靴、靴下などの品書を見て三時迄に家に歸へれゝば結構だがと思つて、

「お祖母樣人形をよつておいでになる間に私他の買物をして參りませう。赤坊の着物と春ちやんの羽織と、その方が時間の經濟ですわ」

「それでは雪ちやん羽織は八つの女の子ので着物は今年產れた子のですよ、そして丈夫なのがいゝよ」

「ハイ〱、では私の歸へつて來る迄此處に待つていらつしやいよ」

雪子さんは下へ行つたり三階へ上つたりして大急ぎで買物をして前のお手遊の店の處に來て見ますと黑い袋を提げた舊式のお婆さんの影は見えませんでした。

「此處は確かにお祖母樣をお置きした帳場だが、何處か他の處を見にいらつしつたのかしら。又事に依ると私を見付けにお出になつたのではないか」

と雪子さんは困つて居りました。

雪子さんは逢ふ人毎にキヨロ〱見ながら人込をわけてお手遊の店の周圍を五六度廻りましたがお祖母樣はおいでになりませんでした。はぐれておしまひになつたのか知らん、急に御病氣にでもおなりになつて病院にでも連れ込まれておいでになつたのかしら。お父樣がよく氣を付けてお連れする樣にと仰しやつたのに……お父樣に電話をかけ樣かしら……イエ〱そんな事は出來ない。と獨り思案して居りますと、店の見廻人が丁寧に聲をかけて、

「どうかなさいましたかお嬢さん、紙入れでもおなくしになりましたか」

「イヽエ、けれど……お祖母様にはぐれました、あなたお遇ひになりましたか」

見廻り人の困つた樣な顔付は尚更雪子さんを心配させました。彼は事務所に其事を云つて店内を捜させるから休憩室に待つて居る樣にと申しましたので、途方にくれて居つた雪子さんは休憩室に入りました、休憩室は買物で疲れた人や、飽きて痴て居る子供をだましして居る人などで一つぱいになつて居りました、雪子さんは其中に入つて空いた椅子に腰かけて考へて居りました、もうお祖母様とお別れしてから一時間になります。

「あゝお祖母樣に嫌らはれてしまつた、私は高慢で子供が死んでも救ふうともしなかつた。お祖母様は誰れでも困る人は助けておやりになり、御自分が一文なしになつても人におやりになつた」と雪子さんは後悔して居りました。………………

「あゝ少しよくなつた樣だ、お前の倒れた時丁度側に居つて仕合だつた」と柔しい聲で黒い袋の中から薬の瓶を出して、雪子さんの額にぬつて居られたのはお祖母樣でした。

「お祖母様にお目にかゝつたから、もうすつかり療りました……」

彙報

東京青年會

本會は多大なる御恩寵により特に大正六年を感謝を以て終りました、目下一同は新年に於る事業の計畫等につき多忙の時日を費して居ります。いづれ詳細は次號に御知らせ致しますが此所に皆樣の御健康を祝し且樂しきクリスマスと、希望に滿ちたる新年を御迎へになる樣祈ります。

十二月中事業報告 （イ）學生部、（一）前會の宿題なりし中華民國女子留學生と親交の道を開きたき一計畫として日本の良家庭を紹介することを定めたり、副會長志立夫人は正月に早々招待すると約束せられたり。（二）なほ同姉妹のため日本語教授の組織だちたる組を開きてはとの問題起り大に賛成し目下其の準備として調査中なり。（ロ）市内部委員會、是は學生以外の女子の爲めに働きたき目的の爲なり。第一回委員會にては會費自辨にて會食したる後協議せり、之は大に研究の必要あれば委員は手分けをなし次回までに左の

事項を調査したる後大なる活動をなしたき希望なり。神田及び麴町區に於る看護婦、産婆等の數並に學校數病院の數、工場工女の數、職業紹介所、雇人口入所、女勤人數等なり。

家庭看護法講習會十回終了せり、人數七名なり。

英語科。初等科、月、水、金、午後三時半より

普通科、月、水、金、午後四時半より　主任　ミス、イーストレーキ

料理科、火水の二組、午後一時より　主任　ミス、パタソン

體操科、水午後四時より　主任　ミス、フアンダ

其の他毎水曜日晩は青年會にて特に唱歌の組、聖書の組、體操の組等あり又幹事委員等は皆樣を歡迎致したいと思つて居りますから夜御都合のよろしい方は御立ち寄り下さいまし。

□頁の都合に依り東京支部以外の支部彙報及友理欄を二月號に讓りし事を殘念に存じ且又各支部に對し御詫申上候。（編輯係）

消息

○ミス、グリーン、ミス、エドナ、カフマン無事着米。

○河非幹事　上海の傳道後援を終へ十九日夜無事歸京。

○ミス、オールテン嬢橫濱青年會幹事として就職、同所に在住。

○ミス、フツクス、ペテログラードより來られし同氏は田町に居住本部の事務を助けらる。

○稻沼姉　當事務所にてタイプライター練習中なりし同氏は先頃日本郵船會社へ入社

寄附金及會友會費領收（本部報告）

（但し十二月雜誌編輯締切迄）

寄附、松本茂、吉長襄、坂部いち子

會費、安東庸子、小宮珠子、山本せい、大井上春、ミス、コウザート、高倉せん、神宮茂

雜誌代領收

鈴木とや、遺愛女學校、橫濱女子青年會、岡山日本基督教會、太田儀子、林貝子、遺愛女學校、久保田てる

東京會員の雜誌代金は東京青年會の方よりまとめて參りますから別々にお名前を載せませんけれ共雜誌の參ります限りはお受取致したものと思召し下さい。

電話と振替

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

電話本局五九八番

振替東京貳參七貳參番

一女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅	内地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正六年十二月廿八日印刷納本
大正七年一月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉太郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

she was working in the Y.W.C.A. in England, and she is desirous of starting a similar work amongst Japanese now. Miss Kawai introduced her to Miss Jane Ward and other Y.W.C.A. workers in Shanghai, so in the future when the work is to be starting for Japanese they would co-operate to make it most effective.

Miss Kawai had very little time to do any kind of visitation outside of her mission. However, she sees that in the near future an association must be started for her sisters. How it should be done needs careful consideration, and consultation with the Chinese National Committee. Since there is a Japanese Y.M.C.A. it would not be a very difficult thing to start a Y.W.C.A. However, the situation is very complicated.

Miss Kawai was very much impressed with the work of the Shanghai Y.W.C.A. for Chinese girls. She visited the Physical Training School, and she was at the rally of the finance campaign. We hope that our National Secretaries may go over there to visit the Chinese work, and that the Chinese Secretaries may know our work much better in the future.

KOBE.

On her way back to Tokyo a meeting was held in Kobe, where she spoke on the emigration question. After the middle of December it is not easy to have kind of public meeting anywhere in Japan. However, there were over a hundred people present, who were informed for the first time of the needs concerning their sisters who go abroad. One official from the government also spoke a few minutes, giving statistics for those who leave from Kobe. After the meeting the leading women who attended expressed their desire of having Miss Kawai or Miss Matthew come to them to hold parlor meetings and plan out the work for helping girls who leave Japan from Kobe. A newspaper reporter who is a friend of Miss Kawai promised to help all he can to make the thing known to the public. As there is some change in the immigration law every emigrant must be in the port of call two weeks before they leave. Therefore, during these two weeks of their stay, there will be much work for us to do for them. After the New Year the National Secretaries will go back again to call upon individuals and will begin definite work for the Kobe Y.W.C.A.

OUR FIRST CHAIRMAN.

Miss M. A. Whitman, who has been a member of the Baptist Mission for the past thirty-four years, and also was the first Chairman of the National Committee of the Y.W.C.A. in Japan, died on Sunday, December 16th. Miss Whitman was also Chairman of the Promoting Committee which first asked the Y.W.C.A. to come to Japan, and was most helpful in all the beginnings of the association work. She was Chairman of the National Committee until she left Japan on furlough in the winter of 1908-9, when Mrs. Ibuka took her place. We look back on the work of the pioneer committee with great admiration and intense gratitude. The work which they did, and the lives they lived inspire us to bigger work as we look upon the needs of Japan and what our future should be.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XV — JANUARY, 1918 — NUMBER 1

MISS KAWAI'S TRIP.

SHANGHAI.

Some years ago a certain Japanese Christian business man started a Y.M.C.A. in Shanghai for his fellow countrymen. The work grew gradually and in the association building a few Christians used to come to hold their Sunday services. Thus a Japanese church was born within the Y.M.C.A.

As the years went by they felt it was most advisable to have the association and church separated, and now the Japanese Christians have their own place of worship. It is a kind of union church and at this time it has a membership of less than one hundred. It is said that Shanghai now has thirteen thousand Japanese, but only a handful of them are Christian. They are transient and it is difficult for the church to grow. If every Christian who goes there was strong enough to come forward at the time of his arrival the Christian band would be much stronger. Unfortunately some of them do not associate themselves with the church. The women of this church asked Miss Kawai to come over for two week's evangelistic work among Japanese.

She arrived in Shanghai on November 26th and she met the warmest welcome. The meetings were of two kinds: one, public meetings held in church and Japanese club house; and two, group meetings in different Christian homes. Some times these gatherings were in wealthy families and at other times they were held in humbler homes. The Shanghai Japanese community was much interested in this movement, as it was the first enterprise of any kind undertaken by women. The chief editor of the leading Japanese paper knows Miss Kawai, and he is a Christian, therefore the meetings were very widely advertised, and the public was well informed about them.

There are many well to do, educated, Japanese women, as well as those who are helpless and degraded. Among the former there are many who are interested in religion. Wherever Miss Kawai went she was surprised to find that all the people had some Christian connection, such as their own friends, or relatives, or teachers. This show how widely the seeds of Christianity have seen sown throughout Japan, and it is most encouraging to those who are engaged in Christian work. She also found that many leading women had attended one or two summer conference of the Y.W.C.A. in Japan, and some of them had been members of school associations while in Mission Schools. The Japanese Vice-Consul in Shanghai is a Christian man, and his wife is a member of the association in Japan, and she attended two summer conferences before she married, and her mother is now a very warm friend of the Japanese association. Moreover Miss Kawai was sponsor at her baptism.

At Hanchow Miss Kawai discovered that the Japanese Consul's wife is a Christian and she once had been to a summer conference in Tokyo. All these things make us very happy to realize that the leading women are Christian, and their influence is bound to tell among the women of their communities.

During her stay Miss Kawai had thirty big and small meetings. Once she spoke to Japanese prisoners, and once to the servant class. The rest of the meetings were for the public in general.

There is another Japanese Christian work in Shanghai which is called the Angarick Mission, started by a Miss Smith eight years ago. She was a Methodist preacher in England before she came to China and now she works independently for Japanese. She has an English home for Japanese bachelors, and has Japanese boy scouts, the regular Sunday service and Sunday school, and Bible classes, besides helping sick people and degraded women very quietly. About twenty-five years ago

女子青年界第拾五卷第一號（每月一日一回發行）

大正六年十二月廿八日印刷納本　大正七年一月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

